

# 平成20年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題 (60分)

### 北海道ブロック

|      |  |    |  |
|------|--|----|--|
| 受講番号 |  | 氏名 |  |
|------|--|----|--|

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて8頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題1 左官基幹技能者の説明に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 左官基幹技能者は、十分な経験と、技術者・他職の職長との調整能力、その他現場のマネジメント能力に優れた左官技能者の新たなステータスである。
2. 熟達した直接施工能力を持った左官基幹技能者は、「段取り・とりまとめ」といった作業管理を行わないのが一般である。
3. 建設現場では、品質・コスト・安全面等での質の高い施工を実現できる優秀な左官技能者の確保・育成・活用が必要である。
4. 左官基幹技能者は、技術者に対して施工方法や作業手順について「提案・調整」を行える技能と技術を結ぶ役割を果たす上級技能者である。

**問題2 基幹技能者資格取得者へのインセンティブ（奨励・刺激・報奨の意）向上に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 基幹技能者の処遇の定めに関する規定がされたこと。
2. 建設業法に基づく施工体制台帳に、基幹技能者資格名を関連資格として積極的に記載すること。
3. 国土交通省労働資材対策室より、施工体制台帳に記載しても良い文書が発表されていること。
4. 経営事項審査における、基幹技能者の優遇評価をすること。

**問題3 建設業法に基づき、建設業の許可に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設業を二つ以上の都道府県に営業所を設けて営業しようとする者は、国土交通大臣の許可が必要である。
2. 一つの都道府県に営業所が限られている者は、都道府県知事の許可が必要である。
3. 発注者から直接工事を請け負い、かつ、3,000万円以上を下請契約して工事を施工しようとする者が取得する許可は、一般建設業である。
4. 特定建設業の許可を受けようとする者以外の者が取得する許可は、一般建設業である。

**問題4 労働安全衛生法に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 作業主任者は、労働災害を防止するための管理を必要とする作業を行う場合、免許を受けた者又は技能講習を修了した者のうちから選任され、作業に従事する労働者の指導等を行うものである。
2. 事業者は、労働者を雇入れたときは、従事する業務の技能向上のための教育を行わなければならない。
3. 統括安全衛生責任者は、同一場所で元請、下請合わせて、常時50人以上の労働者が混在する工事現場において選任されなければならない。
4. 労働者が常時50人以上の事業場では、安全委員会及び衛生委員会を設けなければならない。

**問題5 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. この法律は、特定の建設資材について、その分別解体等及び再資源化等を促進するための措置を講ずるためのものである。
2. この法律は、解体工事業者について登録制度を実施すること等により、再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量等を通じて、資源の有効な利用の確保及び廃棄物の適正な処理を図るものである。
3. この法律は、生活環境の保全及び国民経済の健全な発展に寄与するものである。
4. この法律における特定建設資材で政令に定めるものは、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、コンクリートブロック、石、プラスチックである。

**問題6 VE(バリュー・エンジニアリング)の手法に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. コストアップを下回る機能の大幅向上による価値向上
2. 機能向上による価値向上
3. 機能向上とコストダウンによる価値向上
4. コストダウンによる価値向上

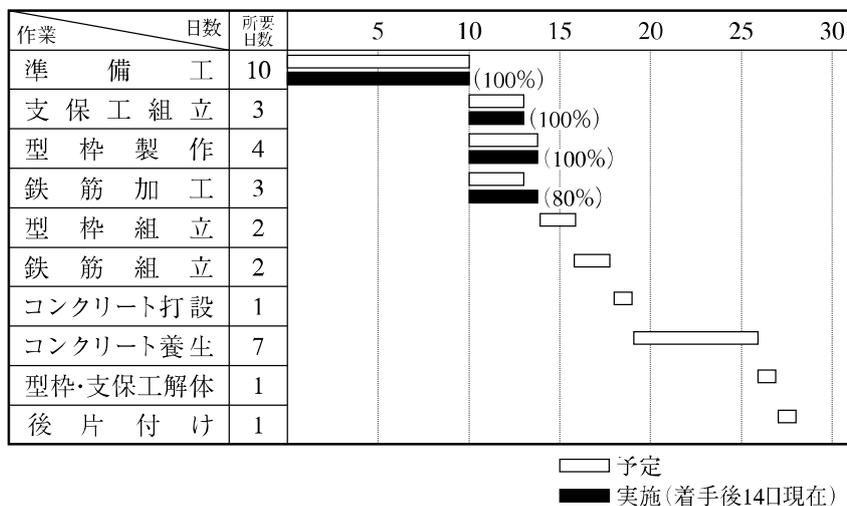
問題7 VEを実施するためのブレインストーミング（BS）に関して、最も不適当なもの  
のはどれか。

1. ブレインストーミングとは、集団でアイデアを出す技法である。
2. ブレインストーミングのルールは、他人の意見を批判しないことである。
3. ブレインストーミングのルールは、アイデアを出すだけ出して判断は後回しにする  
ことである。
4. ブレインストーミングのルールは、質は量を生むという観点から、アイデアに関し  
て質を重視することが最も重要である。

問題8 工程表の作成に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 縦軸に作業名、横軸に月日を示した工程表をバーチャート工程表という。
2. 縦軸に出来高累計、横軸に工期を示した工程表をネットワーク工程表という。
3. バーチャート工程表に進捗度<sup>しんちよくど</sup>を示した線をS字カーブという。
4. 縦軸に作業名、横軸に達成度（%）を示した工程表をガントチャート工程表という。

問題9 以下に示した工程表の説明に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、バーチャート式工程表である。
2. この工程表は、横線式工程表である。
3. この工程表は、ネットワーク式工程表である。
4. この工程表は、縦軸に作業名、横軸に所要日数を示したものである。

問題 10 企業が社会的に存立するための三要素に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 企業の利益
2. 株主総会
3. 従業員の幸福
4. 企業の社会的責任

問題 11 災害の発生したときに応急措置の要点の順に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 災害に直結した設備、機械等の動力は直ちに停止する。
2. 被災者を救出し応急手当をする。
3. 災害発生現場の復旧に努める。
4. 災害の目撃者の把握に努める。

問題 12 契約書に記載すべき項目内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 見積書
2. 工事の範囲
3. 工事金額
4. 工事期間

問題 13 原価管理を行う上で、最も不適当なものはどれか。

1. 工事の品質を維持する。
2. 工期を守る。
3. 適正な利潤を確保する。
4. 安全を確保する。

問題 14 建設現場における施工管理の三要素に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 品質管理
2. 工程管理
3. 原価管理
4. 安全管理

**問題 15 建設現場における資材管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 規格・仕様に適合した品質の資材である。
2. 便宜上、1度に納入する。
3. 適正な価格の資材である。
4. 資材の形状に合わせた保管場所を確保する。

**問題16 品質管理の用語に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. ISOとは、製品やサービスの質そのものに保証しているわけではない。
2. TQC (Total Quality Control、トータル クオリティー コントロール) とは、統合的品質管理、または、全社的品質管理のことである。
3. 品質が良いとは、長さ、重さ、正確さのような特性が、規格としてその範囲内に収まっているということである。
4. ISO9001には、“経営者の責任”、“資源のマネジメント”、“製品の実現”、“測定・分析及び改善”など、多項目にわたる品質マネジメントシステムの要求事項が明確に規定されていない。

**問題17 外壁のタイル下地に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 既調合セメントモルタルを使用する場合は、CM-1を用いる。
2. 現場調合セメントモルタルで軽量骨材を使用する場合には、JASS 15 M-104 に基準したものとする。
3. 表面仕上げは、木鏝・スチロール鏝で目荒らしをする。
4. タイル下地は、JASS 15 の適用仕様を運用する。

**問題18 ラス下地を留める付け金物のステーブルに関して、JASS 15で適用仕様とされているもののうち正しいものはどれか。**

1. 1012F
2. 1010J
3. 1013J
4. 1019J

問題19 セメントモルタル塗りの塗り厚に関して、JASS 15の適用仕様で最も不適当なものはどれか。

1. 仕上厚は、天井・ひさしは12mm以下、その他は25mm以下とする。
2. 1回の塗り厚は、標準6mm、最大15mm以下とする。
3. ALCパネル下地の総塗り厚は、15mm程度を上限とする。
4. つけ送り厚さが25mm以下でも、総塗り厚35mmを超える場合は、はく落防止を補強する。

問題20 下地と左官塗り層との寸法変化（ムーブメント）に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 熱冷ムーブメントをサーマルムーブメントという。
2. 乾湿ムーブメントをモイストチュアムーブメントという。
3. 熱冷ムーブメントは、塗られたモルタルなどに雨水や湿分の影響で乾燥と湿潤の相互の繰り返し変化による伸縮・反りなどの変形挙動が起こるものである。
4. 相対的ムーブメントをディファレンシャルムーブメントという。

問題21 効果のある指示の出し方に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 指示を出す際に、優先順位をつける。
2. 指示の出し方において、「複数案」や「代替案」を示す。
3. 命令や指示を与える場合、「担当」、「日程」、「コスト」を明確にする。
4. 部下を納得させるためには、「嗅覚」、「味覚」、「触覚」に訴える。

問題22 部下の能力等を向上させるOJTの手法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 自分で考えさせて、なるべく教えないこと。
2. やってみせて、見習わせること。
3. 経験は、人間の成長に極めて大きな影響を及ぼすものである。
4. 部下が、進んで自己啓発に励むように動機付けすること。

問題23 管理者としての効果的な話し方に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 話すことは、重要だという認識を持つ。
2. 自信を持ち、熱意を込めて話す。
3. 話は、具体的に時間をかけて話す。
4. 話すことは、自分の考えを簡略化する技術であるという認識に立つ。

**問題 24** 面談時におけるわかりやすいコミュニケーションのコツについて、最も不適当なものはどれか。

1. 論理的で、論理に矛盾があること。
2. 数字、データの裏づけがあること。
3. 簡潔であること。
4. 「事実」、「状況」に対して、正確、率直であること。

**問題 25** 部下への指導方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 気づいたその時にひと声かけて教える「統率力」が必要である。
2. 仕事の指示・命令を与えながら教える「決断力をもって行動する」ことが必要である。
3. 自分本位でマイペースな仕事ぶりの部下に対する指導法は、そのまま様子を見る。
4. 人前で“ほめる”工夫をし、「思ったことを口に出し実行する」ことが重要である。